

第5講 議論を組み立てる

田中重人 (東北大学文学部准教授)

[テーマ] 厳密な思考と建設的な批判

1 課題

作成してきた問いと答えの表について、意見を交換する。

- 批判的に
- 細かいところの論理的整合性
- 全体的な一貫性
- 自分のもっている知識との矛盾

2 注意すべきポイント

概念と用語

- 定義と意味
- 実際の用法
- 当てはまるものと当てはまらないもの
- 他の概念との関連

論理

- 前提
- 必要条件と十分条件
- 逆や裏を考えてみる

データ

- 対象
- 測定と分析の方法
- 測定の妥当性・信頼性再現性
- 結果をどのように解釈するか
- どのように一般化できるか
- 直観と内省

推論

- 確率と統計的推測

- 場合わけは網羅的か
- 複数の推論の組み合わせ

価値判断

- さまざまな価値基準
- 一貫性

3 「問い」と「答え」から論文へ

「問い」と「答え」1組だけで1本の論文ができるとは限らない。そうでないことのほうが多いので、いくつもの「問い」と「答え」を組み合わせ、論文を書き上げるのがふつうである。

研究のプロセスでは、さまざまな問いを立てて、並行して答えを探していくことになる。論文を書く際には、実際に答えを出してきた順序とはちがう組み立てかたを考えること。

4 発表会、口頭試問、期末レポート

4.1 レポートの形式

この授業での「期末レポート」は、ひとつの問いを立てて、それに対する「答え」「根拠」等を、一定のフォーマット（初回授業資料参照）で記述する。論文のかたちにしなくてよいので、箇条書き等で、必要な情報を短くまとめること（A4用紙1-2枚程度）。

4.2 発表会

7/15, 22の授業で、各自の期末レポートについて発表をおこなう

- 発表内容についての資料を Google Classroom ストリームに投稿（初回資料にしたがって簡潔にまとめる）
- ペアを組み、互いに紹介する
- 紹介者から研究内容を紹介（2分）、そのあと自由に質疑（10分）
- 紹介者との間で事前に打ち合わせしておくこと。方法（オンライン会議、メール連絡等）は、各ペアで決める
- ペアは今日決定

4.3 口頭試問

7月下旬から8月初頭に、口頭試問をおこなう。1人15分程度。時間はそれぞれ決める。

発表会の時の資料から改訂した部分がある場合は、改訂後の資料を持っていくこと。試問ではいろいろなことを聞かれる可能性があるため、参照する可能性のある資料を準備しておくこと。

4.4 期末レポート（最終版）

期末レポートをさらに改訂した場合、8/16までに Google Classroom に提出すること。8/16までに提出されれば、レポート確定版として成績評価の対象になる。これがない場合、口頭試問時のレポートで評価する。

文献

大島弥生・池田玲子・大場理恵子・加納なおみ・高橋淑郎・岩田夏穂（2005）『ピアで学ぶ大学生の日本語表現：プロセス重視のレポート作成』ひつじ書房。